

令和3年度農作物病虫害発生予察技術資料第7号

令和4年(2022年)3月30日
山口県病虫害防除所

イチゴのアザミウマ類の防除について

イチゴのアザミウマ類の発生が、現在多い状況です。

今後、気温の上昇に伴いさらなる多発生が予想されるため、下記のとおり防除対策の徹底をお願いします。

記

1 発生状況

3月22日～25日の巡回調査では、発生ほ場率52.6%(平年26.0%)、寄生花率7.0%(平年3.4%)で平年に比べ多かった(図1、2)。

発生している主な種類は、ヒラズハナアザミウマ(写真1)であった。

2 今後の予想

- (1) 対象地域 県内全域
- (2) 発生量 多

3 防除対策

- (1) 施設内に青色や黄色の粘着トラップを設置して成虫を誘殺する。また、施設周囲に反射マルチを設置すると、成虫の侵入および活動を抑制できる。
- (2) 花をよく観察し、寄生花率が10%以上となった場合には、速やかに防除する。
- (3) 防除薬剤は別表を参照とする。

4 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤散布後は防除効果を確認し、効果が低い場合には他剤により、再度防除を行う。また、同一薬剤の連用、同一系統の薬剤の輪用は避ける(別表参照)。
- (2) 薬剤散布を行う場合は、ミツバチに影響の少ない薬剤を使用する。
(山口県農作物病虫害・雑草防除指導基準ーミツバチの訪花活動に対する農薬の影響を参照)
(<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cmsdata/3/e/3/3e30ea51da8efd56b606d192ed6b0f26.pdf>)
- (3) 適正な薬剤散布作業の実施、農薬使用基準の遵守など安全で効果的な防除に努める。

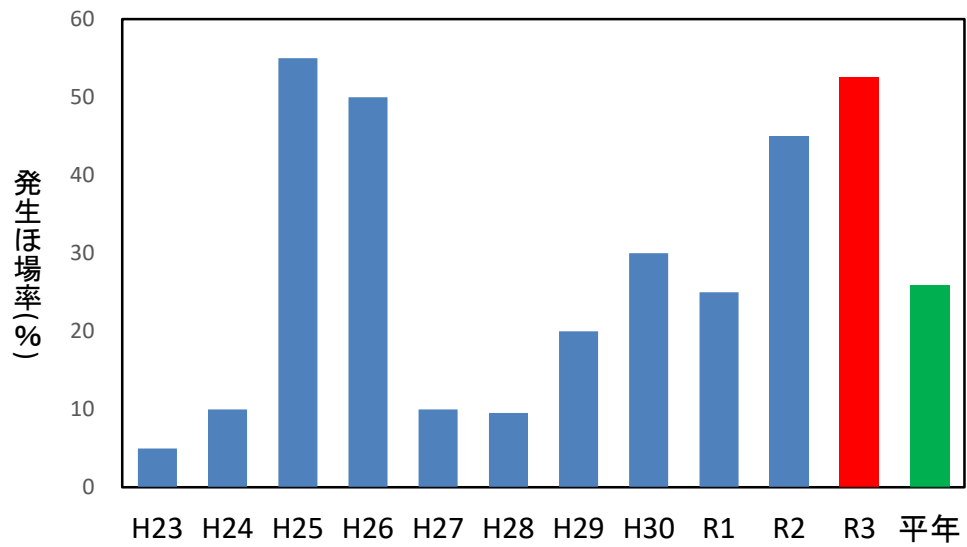


図1 発生ほ場率の年次推移(3月下旬)

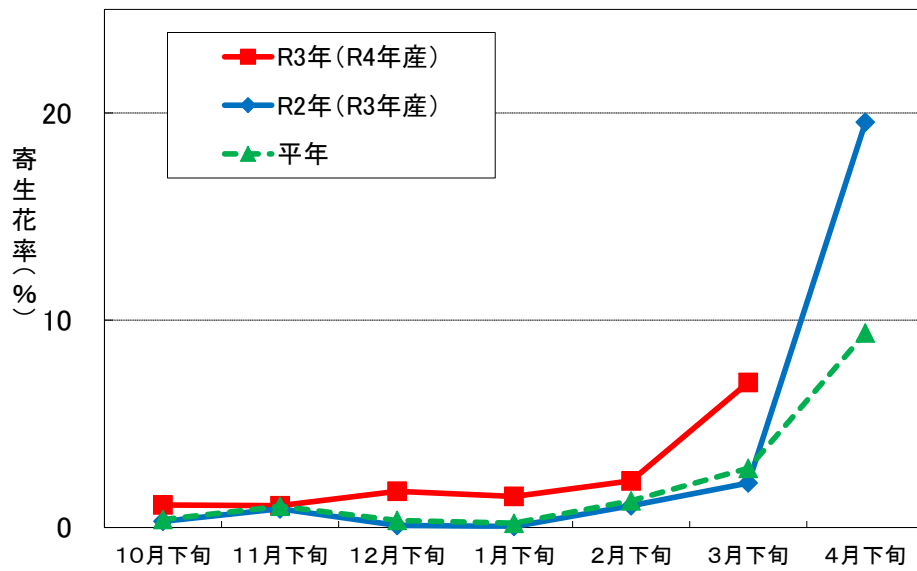


図2 寄生花率の推移



写真1 ヒラズハナアザミウマ
雌成虫



写真2 被害を受けた果実

表 イチゴのアザミウマ類に登録のある主な薬剤

殺虫剤 コード	商品名	希釈倍数・使用量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用 回数	使用方法	ミツバチの 安全日数
3A	アーデント水和剤(普)*	1000倍,150~300リットル /10a	収穫前日まで	4回以内	散布	2~3日
4A	モスピラン顆粒水溶剤 (劇)	2000倍,100~300リットル /10a	収穫前日まで	2回以内	散布	翌日
4A	モスピランジェット(劇)	400立方メートル当たり50g	収穫前日まで	2回以内	くん煙	翌日
5	スピノエース顆粒水和剤 (普)	5000倍,100~300リットル /10a	収穫前日まで	2回以内	散布	3~7日
	ディアナSC(普)	2500~5000倍,100~300リッ トル/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	3~7日
15	カスケード乳剤(普)	4000倍,100~300リットル /10a	収穫前日まで	3回以内	散布	翌日
	マッチ乳剤(普)	1000~2000倍,100~300リッ トル/10a	収穫前日まで	4回以内	散布	翌日
23	モベントフロアブル(普)	2000倍,100~300リットル /10a	収穫前日まで	3回以内	散布	翌日
28	ベネビアOD(普)	2000倍,100~300リットル /10a	収穫前日まで	3回以内	散布	翌日
30	グレーシア乳剤(普)	2000倍,100~300リットル /10a	収穫前日まで	2回以内	散布	翌日
34	ファインセーブフロアブル (劇)	1000~2000倍,100~300リッ トル/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	翌日

* :アーデント水和剤はミナミキイロアザミウマでの登録。